

廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合 第151回事務局会議 議事概要

日時: 2026年7月2日(木) 10:00～11:20

場所: 東京電力ホールディングス 本社 本館3階 3C 会議室

出席者:

浅間上級研究員(早大)、岡本名誉教授(東大)、小山客員研究員(電中研)、
辻本特別対策監、宮崎審議官、八木特別対策監、加賀室長、須賀参事官、駒田企画官(資工
庁)
内閣府、文科省、厚労省、NDF、東芝、日立、三菱重工、MRI、MRA、IRID、JAEA、電中研、
東電 他

1. 前回議事概要確認

- ・ 東京電力より、前回議事概要について説明があった。

2. プラントの状況

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータについて説明があった。

3. 個別分野毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。

- ① E エリア フランジ型タンク解体完了について
- ② プール燃料取り出しの進捗について
- ③ 2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の状況
- ④ 固体廃棄物貯蔵庫第11棟の工事進捗について
- ⑤ 3号機使用済燃料プールスキマサージタンク水位低下について

- ・ 質疑応答における主なやりとりは以下の通り。

<E エリア フランジ型タンク解体完了について>

- Q. タンクの解体がいかに重要なことか、漏えいリスクが解消されて安全性が高まったということを示してほしい。高線量のタンクもあったと思うが作業における被ばくはどうか、安全に作業が行われたか。(早大浅間)
- A. 作業員の被ばく低減のため、適切な装備・物理的な遮へいを行い、計画線量内で作業を行った。(東電)
- Q. タンクに溜まっていたスラッジは、回収後に中間貯蔵施設に運ばれて適切な管理がなされている理解で良いか。地下水バイパス一時貯留タンクとして運用されている9基のフランジ型タンクについて、通常使用年限を過ぎていると思うが将来的にどうするのか。また、レーザー除染等でタンク内除染を行ったとのことだが、比較的線量の高い場所における除染作業の情報・ノウハウはどのようにまとめられているのか。(東大岡本)

- A. 現在スラッジは固体庫 9 棟に一時保管中である。処理・処分方法が決まり次第、搬出して処理・処分したい。レーザー除染の知見は原子力学会等で報告している。作業すべての実績は現在まとめているところで、今後学会で報告したい。地下水バイパス一時貯留タンクについては、内部点検やこれまでの知見を活かした補強を行い使用している。今後いつまで使用するかは、関係各所と相談しながら、地下水バイパスを一時的な停止をした際の影響を評価しつつ検討していきたい。(東電)
- C. 地下水バイパスは無くならないと思うので、何らかの代替措置も検討いただきたい。(東大岡本)
- Q. スラッジに様々な核種や塩化物が入っていると想定されるが分析はどうか。他のタンクと比べても汚染が大きく、解体後の再利用を考えると、他のタンクに比べ特殊な扱いが必要だと思うが、どのように管理しているのか。(電中研小山)
- A. スラッジの成分については、将来的な処理・処分方法検討のため、JAEA と共に分析を行っている。他タンクと同様にコンテナに保管しているが、識別管理を行い将来の処理・処分方法を検討したい。(東電)

<プール燃料取り出しの進捗について>

- Q. 1号機の床面損傷調査は具体的にどのように行ったのか。作業員による目視かカメラによる確認か。作業員が行っていた場合、被ばく等の安全性はどうか。(早大浅間)
- A. 床面調査はガレキ撤去装置を用いて遠隔でガレキを撤去した後、カメラによって遠隔で床面の状況確認を行った。そのため作業員の被ばくはなかった。(東電)
- C. 解体や調査の結果だけでなく、作業員の安全性をどのように確保したかを含めて報告いただきたい。(早大浅間)
- Q. 操作員が遠隔でクレーンを操作し、大きなトラブルがない限りオペフロに作業員は入らないのか。(東大岡本)
- A. 基本的には遠隔操作だが、ガレキを入れる容器の玉掛け・玉外しは有人作業で実施し、撤去装置のメンテナンス作業が発生すれば有人での作業が発生する。(東電)
- C. 高線量な場所での作業なので、玉掛け・玉外しはリモートでできるような方法を検討いただきたい。(東大岡本)
- Q. 1号機では大型カバー内で作業が行われたが、これまでの天井がない環境と比べて、ダストの飛散状況に変化はあったか。(電中研小山)
- A. 大型カバー可動部と換気設備の出入口でダストサンプリングしているが、現時点でいずれも有意な変動を確認していない。(東電)

<2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業の状況>

- Q. ロボットアーム据付後の健全性確認の中で、問題や想定外の事象はなかったか。(早大浅間)
- A. 現時点で問題は発生していない。現在マニピュレータの確認を行ったばかりで、アームはこれから動かすことになる。引き続き、慎重に健全性確認を実施したい。(東電)
- Q. 被ばく量が多いのではないかと想定している。今後同様の作業を行う際に参考となるので、今回どのくらい時間が掛かって積算線量はどの程度か教えて頂きたい。(東大岡本)
- A. 被ばく実績については、現在据え付け作業中なので今後集約していく。今回の作業もテレスコ式装置を設置した際の計画や実績を踏まえて、作業の計画や線量低減対策の要否を評価している。今回の作業についても、これからの作業に向けて整理・評価していく。(東電)

- Q. ロボットアームを使った内部調査では、作業内容ごとに先端ツールを変えていくと理解したが、使用する先端ツールによって信号・動力系の切替が必要になり、非常に大変な作業になると思われるがどのように検討しているのか。(電中研小山)
- A. 先端ツールを交換する関係でケーブル交換も必要になる。アームの上にマニピュレータでケーブルを這わせる必要があり、動作確認の一環で操作性の確認を行っていく。(東電)

< 固体廃棄物貯蔵庫第11棟の工事進捗について >

- Q. 固体廃棄物は標準化されたコンテナに入れてから倉庫に入れるのか。最近は自動倉庫のようなものがあるのでその方が安全かと思う。また、保管中の漏えいや、急な線量上昇、火災等が発生した場合の監視機能はどうなっているのか。(早大浅間)
- A. サイト内で標準化されたコンテナを使っていて、他の保管庫でも使えるようにしている。高線量では遠隔フォークリフトでの搬入を計画している。可燃物は保管するレーンを分けていて、火災報知器の設置も行う。空調からの排気はモニタリングを行う。容器の確認は、低線量のものは人の目視で、高線量のものはカメラを入れられるよう検討している。(東電)

< 3号機使用済燃料プールのスキマサージタンク水位低下について >

- Q. 漏えいした水はかなり汚染しているのか。漏えいした水の処理や貯蔵方法はどうか。地下1階は高線量エリアとのことだが調査した作業員の被ばくはなかったのか。今後の対策の中で循環運転の運用を停止するとあるが、問題ないのか。(早大浅間)
- A. 漏えいした水は汚染していて、床サンプでくみ上げて廃棄物処理建屋で滞留水として処理する。調査エリアの雰囲気線量は0.3mSv/h程度で、作業では0.2mSv程度の被ばくをした。循環運転については、3号機は高線量機器を取り出すためにプール内のガレキを取り出しており、それに伴いプールが攪拌されるので系統停止しても問題ない。(東電)
- Q. 3号機はサイフォン対策をすることだが、地震動でのスロッシング等でサイフォンが発生すると思うので、とりあえず水位を下げればいいのか。1, 2号機でもサイフォンの恐れがあるので、一旦停止させてサイフォン対策を行ったほうがいい。(東大岡本)
- A. 3号機は高線量機器の取り出しが終わったらプールの水を抜くことを考えている。1, 2号機についても検討を進めているが、1号機はガレキがあり2号機は高線量箇所なので、しっかり検討の上で対策したい。(東電)
- Q. 1, 2号機のサイフォン対策は難しそうだが、なんらかの代替手段が用意できるとよい。(東大岡本)
- A. 1, 2号機はプールに注水できる方法を構築している。また、2号機の代替冷却は可搬式にして1号機でも使えるようにしていくことを検討している。(東電)
- Q. 3号機 4号機のプールにまだ水が残っているのはなぜか、今後のデブリ取り出しで使うのか。(電中研小山)
- A. 制御棒や点検の時に使用していたフィルタ等の保管のためプールに水を残している。それらの取り出しが完了したら水を抜く予定である。使用済燃料プールを使うことは視野に入っていないが、取り出しの方法によって今後変わっていくと思う。(東電)
- Q. 運転は止めてもある程度の機能は残しておく理解。(電中研小山)
- A. ダストが舞う可能性があるので、プール内の水を残すかは今後検討したい。(東電)

<その他>

Q. 6 月 18 日に発生したモニタリングポスト No.3 の線量高警報発生について、経過と対策について教えていただきたい(東大岡本)

A. モニタリングポスト No.3 の警報は複数回発生している。いずれも短時間で上昇・低下して高レンジ以外のモニタは変動がない。周囲で作業行っていないことから一時的なノイズと判断している。調査を行ったが、発生原因が不明のため、今後予備品をメーカーにて詳細な点検を行った後、今月中頃に取り換えを計画している。ノイズが発生したモニタリングポストはメーカーの工場で、詳細検査を行う予定である。(東電)

Q. 予備品と取り換えるまで、バックアップとして何か設置しないのか。(東大岡本)

A. 異常の発生した高レンジ検出器の他に、低レンジ検出器、線量表示器がバックアップとしてある。(東電)

C. 地元の方への説明が重要となるので、丁寧に説明してほしい。(東大岡本)

次回の廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合事務局会議は 7 月 30 日に実施予定。

以上